

## 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

## 企画研究プロジェクトⅡ(教員・学生参加型) 2021年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	コミュニティ政策学科 4年	大戸美空
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部・教授	原田晃樹
研究課題	熱海市の空き家活用をふまえた地域産業活性化	
研究年度	2021年度	
プロジェクト 分担者	大戸美空、片岡綾音、齋藤玲奈、道家唯、岡崎萌花、矢萩未来	

## プロジェクトの内容及び成果の概要

私たちは地方の温泉観光地に注目し、少子高齢化や空き家の増加、観光客の減少などの問題について考えた。このような温泉観光地の厳しい状況に対し、どのような地域再生の可能性が考えられるかを現場に即して学びたいと考え、静岡県熱海市に注目した。熱海市では同様の問題に悩まされる中、近年では観光の形を変化させ、空き家を活用しながら観光客の数を伸ばしていた。そこで熱海市における空き家の実態やその活用の取組を紹介した文献や団体のウェブサイトレビューし、実際に空き家の活用やゲストハウスの経営を行っている方々などへのインタビューを行い、そうした活動を行うに至った経緯やそれによる地域の変化について調査した。

フィールドワークでは、まず、熱海商工会議所の石井さんにお話を伺った。ここでは、商工会議所が行う支援とコロナ禍における活動、近年の事業者の傾向と飲食業支援、事業者を取り巻く変化、観光客に向けた取組をお話していただいた。次に、株式会社 machimori 代表取締役であり、「熱海から社会を変える」という志のもと、熱海に Uターンしゼロから地域再生を行った市来広一郎さんとお会いし、お話を伺った。Machimori では、①街の満足度を地元住民から高めていく②中心エリアに核を作る③行政と連携して活動する、という大きく分けて3つの取組を行っていることを教えてくださった。また、実際に古民家がリフォームされている現場に見学させていただいた。私たちが見学した「春日町古民家」では、もろくなった床を一度解体したり、庭に生えていた草木を剪定したり、古民家の良さを残しつつ作業を行っているところが見受けられた。

これらのフィールドワークをまとめると、静岡県熱海市は、行政や民間の各プレイヤーによる努力と試行錯誤があり、街の再生が取り組まれていることが分かった。そして、この街の再生手法はどの地域でも用いることができると考えられた。全国の多くの観光も熱海と同様に団体客向けであり、近年の観光の変化による影響がある。そこで、熱海の事例のように観光客に焦点をあてるのではなく、まずは街のファンを作ることから始め、徐々に街を巻き込んでいくことが重要ではないかと推察した。現在地域の活性化は、熱海市だけでなく、全国の地方都市が抱えている問題である。このような問題に対し、熱海市のような観光業が栄えている地域に限らず、各地域の風土や歴史、伝統や産業、人といった地域資源を活用することで地域の魅力の創出ができると考えた。